

孫子「形篇」

孫子四
形篇 1

14 孫子曰わく、昔の善く戦う者は先ず勝つべからざるを為して、以て敵の勝つべきを待つ。

勝つべからざるは己れに在るも、勝つべきは敵に在り。故に善く戦う者は、能く勝つべからざるを為すも、敵をして必らず勝つべからしむること能わず。故に曰わく、勝は知るべし、而して為すべからずと。勝つべからざる者は守なり。勝つべき者は攻なり。守は則ち足らざればなり、攻は則ち余り有ればなり。善く守る者は九地の下に蔵れ、善く攻むる者は九天の上に動く。故に能く自ら保ちて勝を全うするなり。

15 勝を見ること衆人の知る所に過ぎざるは、善の善なる者に非ざるなり。

戦い勝ちて天下善なりと曰うは、善の善なる者に非ざるなり。故に秋毫を挙ぐるは多力と為さず。日月を見るは明目と為さず。雷霆を聞くは聡耳と為さず。古えの所謂善く戦う者は、勝ち易きに勝つ者なり。故に善く戦う者の勝つや、智名も無く、勇功も無し。故に其の戦い勝ちて忘わず。忘ざる者は、其の勝を措く所、已に敗るる者に勝てばなり。故に善く戦う者は不敗の地に立ち、而して敵の敗を失わざるなり。是の故に勝兵は先ず勝ちて而る後に戦いを求め、敗兵

は先まず戦たたかいて而しかる後のちに勝しょうを求もとむ。

16 善よく兵へいを用もちうる者ものは、道みちを修おさめて法ほうを保たもつ。

ゆえ 故よに能しょうはいく勝敗せいの政なを為なす。

17 兵法へいほうは、一いちに曰いわく度たく、二にに曰いわく量りょう、三さんに曰いわく数すう、四しに曰いわく称しょう、五ごに曰いわく勝しょう。

ち 地たくは度しょうを生たくじ、度りょうは量しょうを生りょうじ、量すうは数しょうを生すうじ、数しょうは称しょうを生しょうじ、称しょうは勝しょうを生しょうず。
ゆえ 故しょうはいに勝兵いは鎰いを以もつて銖しゆを称はかるが若ごとく、敗兵はいへいは銖しゆを以もつて鎰いを称はかるが若ごとし。

18 勝者しょうしやの民たみを戦たたかわしむるや、積水せきすいを千仞せんじんの谿たにに決けつするが若ごとき者ものは、形かたちなり。